

学校概要

創立 66 周年	学校長 矢田 弘	副校長 川嶋 直子	学期 3 学期制	児童・生徒数 463 人
学級数 一般級: 13 個別支援級: 2			主な関係校: 三ツ沢小 南神大寺小(青木小、中丸小、斎藤分小)	

学校教育目標

自分の将来に希望をもち、「じりつ」した生き方を実現させていこうとする生徒を育てるために、次のことを目標として掲げ取り組みます。

- [知] 自ら進んで意欲的に学ぶ態度を育みます。【意欲】
- [徳] 個性を大切にし、心豊かな感性と共に生きようとする精神を育みます。【個性・共生】
- [体] 健康で安全に生活を送ろうとする態度を育みます。【健康・安全】
- [公・開] 地域に学び、地域とともに成長する態度を育みます。【地域愛】

学校の特徴

- 学区は横浜駅にも近く、栗田谷の丘陵の続きと国道1号線をはさんで、三ツ沢グランド続きの丘陵の一角を含むとても広いのが特徴である。また学区内には横浜翠嵐高等学校や三ツ沢競技場がある。
- 平成30年4月1日で創立65年という歴史があり、地域やPTAは学校にとっても協力的である。地域との結びつきが強く、夏祭には生徒がソーランを披露している。また、地域では職場体験等も積極的に受け入れていただいている。
- 小中一貫ブロックでの学校運営協議会を設置しており、小中合同での授業研究を始めとした連携ができています。
- 第1学年で生活習慣や学習規律を徹底して指導することで、その後の指導に生かすことができている。

学校経営中期取組目標

学校教育目標の実現に向けて、教職員一人ひとりが自分の強みを発揮し、一丸となって次のことに取り組みます。

- ◆授業評価や授業研究を通して、常に授業改善に取り組み、学び続ける教職員を目指します。
- ◆自他を大切にすることを育てるとともに、規範意識を高めることでいじめが起きない学校風土をつくります。
- ◆自分の心身の状態を把握し、健康・安全に留意しながらセルフコントロールできる生徒を育てます。
- ◆地域に積極的に出向き、地域に学ぶ機会や貢献することを通して、地域のよさ、人の温かさを実感できるようにします。

小中一貫教育の取組

松本中	ブロック	松本中学校	三ツ沢小学校	南神大寺小学校
9年間で育てる子ども像	[自分の夢を語ることのできる子ども]			
自校の具体的取組	小学校での取組を生かし、スムーズな接続ができる体制を整える。 ◆小中ブロックの合同授業研究会を通して、言語活動の充実を図り、主体的に学ぶ力を伸ばす。 ◆小学生が、授業参観や部活動体験、合唱コンクール等へ積極的に参加できる体制を整える。 ◆自分の得意な分野を伸ばし、自尊感情の育成を図るとともに、他者を尊重するより良い人間関係を築く力を育む。			

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	学習規律を徹底して指導するとともに、基礎的・基本的な内容が確実に身に付くように指導する。また、個に応じた指導を心がける。	① 日常の教育活動で、「服装」「あいさつ」「時間」「準備」を基本にきまりを守る態度を身に付けさせ、基本的な生活習慣の定着を学習活動に生かすことができるようにする。 ② 授業の中で充足感や満足感を持たせるために、生徒の側に立って、体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れる。 ③ 「わかる授業」「楽しい授業」への改善のため、教師同士の授業研究を行う。基礎基本の定着のための活動や生徒同士の学び合いの時間を設定する。
豊かな心	学校の教育活動全体を通して、一人ひとりの自尊感情を高める。また、自他を尊重し、より良い人間関係を築いていけるよう指導する。	① 学級活動を活発にしていく。特に学級での話し合いを積極的に行い、一人ひとりの意見を尊重する中でより良い人間関係を築いていく。 ② 生徒会規約をみんなで読み込む。その中で、自分達の学校生活を自分達で良い方向にもっていくことができることを実感させ、自尊感情を高めていく。
健やかな体	バランスのよい食事や、適度な運動習慣、規則正しい生活習慣が身に付くよう、家庭と協力して健康教育を推進する。	① 家庭の協力を得ながら、望ましい生活習慣を身に付け、生徒が自ら管理していけるように様々な場面で支援する。 ② 自ら様々な運動に取り組み、運動を通して楽しさを味わうとともに、健康の保持増進に努める姿勢をつくり、生涯を通して運動に親しもうという態度を育てる。
生徒指導	生徒一人ひとりの取り巻く環境や特性を理解して向き合い、すべての教育活動を通して、達成感や成就感を味わえるように指導する。	① 生徒一人ひとりへの丁寧な対応と問題行動の早期発見・早期対応に努める。また、人権に関する取組を重視して、自他を尊重できる学習活動を継続する。 ② 地域の主任児童委員と定期的に会合を開き、情報交換を行う。また、警察や補導員、こども家庭相談、少年相談保護センター、児童相談所等との連携を密にする。
特別支援教育	不登校生徒や、特別な支援を必要とする生徒を対象に、スクールカウンセラーや関係諸機関との連携を図りながら、全職員で組織的に支援する。	① 特別支援教育支援員を積極的に活用し、放課後学習支援を行う。一般教室で授業を受けている中で、学習につまずいている生徒の支援を充実させる。 ② 学校便り等を利用し、学校で行っている特別支援教育への取組を少しずつ周知していく。
地域住民との連携	地域行事や神奈川大学との連携事業を通して、子どもたちが様々な人とかかわり、学び、貢献の意識をもてるよう指導する。	① 松中ソーランの伝統を受け継ぎ、次に伝える意識を高め、地域行事に積極的に参加することや祭礼等のボランティアを行うことで地域に貢献する。 ② 大学生と生徒との交流の場を積極的に設定し、互いに充実した関わりになるようにしていく。
学校運営協議会	松本中ブロック3校で合同の学校運営協議会を年4回実施し、学校・地域と連携し情報共有を行い、地域と一体となった協力体制をさらに推進していく。	① 松本中ブロック3校が互いの課題を共有し、今年度は新学習指導要領全面実施に向けて「9年間で育てる子ども像」や「学校教育目標」の見直しを図り、委員の意見を具現化して学校運営に反映させていく。 ② 各校の学校評価をもとに取組目標の更新につなげ、28年度から30年度までの中期のまとめとして学校経営方針の質的向上を図り、平成31年度以降へつなげていく。
いじめへの対応	すべての教育活動を通して未然防止に努め、生徒一人ひとりを理解するとともに、信頼関係の構築を図る。また、組織的に情報共有し、保護者との連携を図りながら素早い対応を行う。	① 生徒とのコミュニケーションを大切に、日常的に生徒の状況を把握するとともに、定期的な面談やアンケートを実施することで、状況を確実に把握する。 ② 教職員及びカウンセラー等の専門職との情報共有を図り、生徒及び保護者の気持ちに寄り添いながら、組織的に対応する。
人材育成・組織運営	メンターチームの活動を活性化させるとともに、OJTを積極的に行う。また「チームまつもと」として各自の強みや得意分野を生かし、組織的に教師力・チーム力を高めていく。	① 「チーム松の実」(メンターチーム)の機能を生かして、ミドルリーダーを中心にOJTを行い、経験の浅い教員が教師力を高めていけるように活動する。また、経験豊富な教員の強みを様々な場面で発信できるようにする。 ② 「チームまつもと」として学校評価等によるPDCAサイクルに基づき、全職員が組織的・継続的な学校運営の改善を図り、組織力・チーム力を高めていく。